

事例2 18世紀の人々の生活の様子について、複数の資料を組み合わせる考察する授業

1 ねらい

新学習指導要領において、「日本史B」では、歴史を考察し表現する学習が重視された。これは、学習指導要領の改訂の柱である言語活動の充実を受けたものである。具体的には「はじめに」の「2 日本史における言語活動の充実」で述べたように、大項目(1)、(2)、(3)及び(6)に、関連する中項目が設置され、通史的な内容を扱う学習と関連付けながら、資料を活用する学習を計画的に実施することで、歴史学習にかかわる基本的な技能を、段階的に高めていくことが期待されている。さらに、これに関して、内容の取扱いでは「様々な資料の特性に着目させ複数の資料の活用を図って、資料に対する批判的な見方を養うとともに、因果関係を考察させたり解釈の多様性に気付かせたりすること。」と記されている。

これを踏まえて、本事例では、農民を中心とする18世紀の人々の生活を題材とし、それに関連する複数の資料を活用し、そこから読み取れる情報をもとに生活の様子を文章で表現したり、発表したりするという学習活動を行った。これを通して、資料の内容を読み取り、因果関係を考察し、その内容を説明したり、自分の考えを文章で表現したりするといった言語活動の充実を図った。また、事象に対する興味・関心を高めたり、事象に対する多面的・多角的な見方を育成することを目指した。

なお、実践は第3学年を対象に行った。また、この実践を行った学校の授業時間は45分であり、1日7時間の授業を実施している。

2 授業実践

(1) 指導目標

- ・必要な資料を複数選択し、その資料の内容を読み取ることができる。
- ・複数の資料から読み取れることを関連付けて、文章にまとめ、発表することができる。
- ・一連の活動を通して得られた情報を踏まえて、事象について多面的・多角的な視点から文章を書くことができる。

(2) 指導計画（5時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
1	・代表の生徒が作成した資料にもとづき、18世紀の人々の生活の様子について仮説を立てる。	・教科書や資料集も参考にさせる。	・学習した内容や資料をもとに、仮説を立てている。 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】 〔ワークシート〕
2	・1時間目に立てた仮説を発表して班全体の共通した時代像をつくる。 ・必要な資料を選択する。	・班員のそれぞれの仮説を尊重して話し合いを進めさせる。 ・二つ以上の資料を選択させる。	・班での話し合いにもとづいて、複数の資料を選択している。 【思考・判断】 〔話し合い〕
3	・選択した資料を読み取り、内容を	・要点をわかりやすく	・資料から読み取った内容

4	・ 関連付ける。 ・ 発表に向けて読み取った内容を模造紙にまとめる。	示したり、図を使用したりするなどの工夫をさせる。	をわかりやすくまとめている。 【思考・判断】 【資料活用の技能・表現】 [発表資料]
5	・ まとめた内容をわかりやすく発表する。 ・ 一連の学習活動で得られ情報や踏まえて、18世紀の人々の様子について各自で文章にまとめる。	・ メモを取るなど、情報を得る工夫をさせる。 ・ 積極的に質問をするよう促す。	・ 聞き手にとって分かりやすい発表をしようとしている。 ・ 収集した情報を踏まえて多面的・多角的な視点から文章にまとめている。 【資料活用の技能・表現】 【思考・判断】 [発表、ワークシート]

(3) 授業の概要

① 1 時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3 分	・ 単元の学習内容の予告と教科書の関連する内容を確認する。	
展開 40 分	・ 生徒による発表①「18世紀の主な出来事」、生徒による発表②「江戸時代の人口変動」を聞いて、学習した内容を確認する。また、重要と思うことや興味をもったことはメモを取る。 ・ 発表を聞いて得られた情報をもとに、18世紀の人々の生活はどのようなものであったかワークシートに文章で表現する。教科書や資料集も参考にする。	・ 事前に 4 名の生徒に二つのテーマについて調べさせておく。 ・ わからない点は積極的に質問するよう促す。 ・ 教科書や資料集も参考にさせる。
まとめ 2 分	・ 次回の学習内容についての予告を聞く。	

1 時間目の学習内容は、単元の導入として、18世紀の全体像を把握させるとともに、既習事項を確認するためのものである。そこで、1 時間目の授業を実施するのに先立ち、希望する生徒を募り以下の作業をさせた。

①資料集、教科書を参考に、18世紀の主要な出来事の年表を作成する。

②図書室の書籍や教師が用意する書籍を参考に、江戸時代の人口変動を示すグラフを作成する。

教師が説明をしてもよかったのだが、このような生徒による事前調査と発表を行ったのは、この単元を生徒中心で進めたいと考えたからである。協力を申し出たのは4名の女子生徒であった。彼女たちは放課後等、図書室や教室で一生懸命に作業に取り組んでいた。

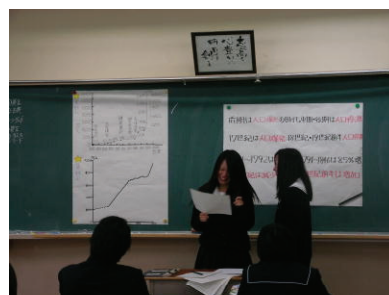
また、発表に対しても、聞く側の生徒たちは熱心にメモをとったり、積極的な質問を行ったりするなど意欲的に取り組む様子が見られた。



(協力してくれた4名の生徒)



(年表を作成する)



(人口変動についての発表)

生徒たちが作成した年表の項目は、以下のとおりである。

1702年	赤穂事件
1709年	徳川綱吉死去 生類憐みの令廃止 幕府、新井白石を登用
1716年	徳川吉宗が将軍に就任 享保の改革
1732年	享保の飢饉
1769年	田沼意次が老中になる
1783年	天明の飢饉 浅間山大噴火
1787年	松平定信老中首座就任 寛政の改革
1792年	ラクスマン根室来航

また、人口変動については、17世紀が「人口爆発」の時代であったのに対し、18世紀以降は「人口停滞」の時代であったことと、特に1720年代から1790年代初頭までは人口減少の時代であったことが発表された。

発表の時間は①と②を合わせて20分程度であった。発表を聞いて分かったことをもとに、教科書や資料集を参考にさせながら、18世紀の人々の暮らしはどのようなものであったのか仮説を立てさせた。さらに、その仮説を各自のワークシートに文章でまとめさせた。以下が、生徒の書いた文章である。

(A)

享保の大飢饉などにより、大きな打撃を受け、米問屋が米価急騰の原因を作ったとして打ちこわしが起きたり、浅間山の大噴火による飢饉で多くの餓死者を出した。全国で百姓一揆がおこり、都市では激しい打ちこわしが発生した。お金持ちの村民と、田畑を失った小作人が出てくる。自給自足的な社会のあり方が大きく変わり、村役人を兼ねる豪農と小百姓や小作人との間の対立が深まった。そして村役人の不正を追及し、村の民主的で公正な運営を求める小百姓らの村方騒動が各地で起こった。

(B)

- ・元禄文化により華やかな陶器や蒔絵が作られた。
- ・享保の改革が行われた。
- ・享保の飢饉が起きた。
- ・徳川吉宗が8代将軍になる。

(C)

農業や産業が発達していき、それで生計を立てる人がたくさんいた。米作りも農具が改良され使いやすくなり、多くの人が楽になった。新田開発もされ多くの農業に関する書物が出版された。その中でも人々はお互いを助け合いながら生活していた。都市などでは歌舞伎や浮世絵などが流行した。

生徒が書いた文章は3つのタイプに分類できる。一つめは(A)のように飢饉や災害、打ちこわしなどに注目し、人々が生活するのに苦しんだ時代であるという内容を書いたもの。二つめは(B)のように、発表された内容などを箇条書きに記したのみで、時代像が描けなかったと推定できるもの。三つめは(C)のように社会が発展した時代であるという内容を書いたものである。生徒が提出したワークシート(25名分)の内容を上分類に従って分けると、以下のようになる。空白の生徒が多い理由としては、十分考えをまとめることができなかつたり、考えをまとめたものの、それを書く時間が取れなかつたりしたためと考えられる。

- ・生活が苦しかった時代…9名
- ・社会が発展した時代 …3名
- ・項目の羅列、箇条書き…5名
- ・空白 …8名

②2時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3分	・本時の活動内容の説明を聞く。	
展開 40分	・2～3名で1班を作る。(全部で10班) ・資料A～Iについての教師の説明を聞く。 ・各班の中で1時間目に各自がワークシートに記入した文章を発表し合い、情報を共有する。 ・各班で話し合い、どの資料を選択するか決める。	・既習事項との関連に注意して説明する。 ・共通点や相違点に注目させ、18世紀の人々の暮らしについて、班員が共通のイメージをもてるよう発表させる。
まとめ 2分	・次回の学習内容についての予告を聞く。	

1班の人数を2～3名としたのは次の理由による。一つめは、2～3名ならば、活動の中で全員が何らかの役割をもてるのではないかと考えたからである。これ以上多いと役割をもたない生徒が出てくる可能性があった。二つめは、1時間目に各自がワークシートに記入した自分なりの時代像を発表し合うのだが、人数が多いとそれだけ様々な情報が出てきてしまい、班としての時代像を形成することが難しいのではないかと考えたからである。

実際に活動を始めてみると、全員が何らかの役割をもって参加することができていた。しかし、

各自の時代像を発表し合い班全体の共通した時代像を形成する話し合いは活発に行われていたものの、結論が出るのに多くの時間がかかっていた。その結果、どのような資料を選択するか、決定できない班が多く出た。個別の生徒の考えを、集団活動の中でどう生かすかということが、この後の活動でも課題になることが予想された。なお、教師が用意した資料は以下の9種類である。

- 資料A 16世紀末～19世紀初頭の田畑面積の変化と石高の増加を示すグラフ
- 資料B 16世紀末～19世紀後半の百姓一揆・村方騒動の発生件数の推移を示すグラフ
- 資料C 踏み車や備中鋤、千歯扱などの農具の絵、干鰯や𦵄粕を製造する様子を示した絵
- 資料D 紅花や藍などの写真、藍玉づくりや菜種油づくりの様子を示した絵
- 資料E 18世紀前半～19世紀前半の地域ごとの人口変動をまとめた表
- 資料F 天明の飢饉の様子を示した絵
- 資料G 浅間山の大噴火の様子を示した絵
- 資料H 江戸時代の博物学についての説明文と図版
- 資料I 18世紀～19世紀の庶民の間での旅行の流行と休養日に関する説明文

生徒の関心を高められるよう、絵画資料や写真、グラフを中心とした資料を準備した。また、原典史料はその読み取りに時間がかかることが予想されたので、まとまった説明が書かれている書籍の文章の抜粋も資料として提示した。

それぞれの資料について、教師が説明をした。また、選択の際には次の二つの点を留意するよう伝えた。一つめは、必ず二つ以上選ぶこと、二つめは、関連付けたり比較したりすることで、18世紀の農民の暮らしがどのようなものであったかがわかるような資料を選ぶことである。

実際に各班が選んだ資料は以下のとおりである。

1 班	資料A	資料F	資料G	2 班	資料E	資料I
3 班	資料B	資料E		4 班	資料C	資料F
5 班	資料B	資料C		6 班	資料B	資料H
7 班	資料D	資料I		8 班	資料A	資料C 資料D
9 班	資料E	資料F	資料H	10班	資料F	資料G

三つの班が資料B、資料C、資料Eを、四つの班が資料Fを選んだ。それらは、授業で直接扱った内容に関する資料なので、多くの班が選んだものと考えられる。

③ 3、4 時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3 分	・ 本時の活動内容の説明を聞く。	
展開 40 分	・ 班の中で話し合いをしたり、必要な書籍などの資料を活用したりするなどして、選択した資料の内容を関連付けて、18世紀の農民の暮らしについてまとめる。 ・ 発表に向けて、資料を作成する。	・ 資料を十分読み取らせ、内容を理解させる。 ・ 資料だけでは関連付けが難しい場合は書籍を活用させる。 ・ B 4 判片面 1 枚に、わかりやすく工夫してまとめさせる。
まとめ 2 分	・ 次回の学習内容についての予告を聞く。	

3 時間目と 4 時間目は図書室で活動を行った。選んだ資料の内容を関連付けて、18 世紀の農民の暮らしはどのようなものであったのか、についてまとめることを目標とした。資料から読み取った内容をもとにまとめることを原則とした。ただし、資料からだけでは理解できないことがあったり、資料を関連付けるためにさらに情報が必要となったりした場合には、書籍を活用させた。また、まとめ方については B 4 判片面 1 枚にまとめることと、図を加えるなど見やすく、わかりやすくする工夫をさせた。さらに、必ず発表資料の中に 18 世紀の農民の様子について文章で表現する場所を設けさせた。

実際の活動の様子を見ていると、資料だけでは活動が進まず、3 時間目の早い段階から書籍を参照している班が多かった。それらの班は、選んだ資料の背景や意味について、おもに百科事典や歴史事典で調べていた。



(図書室での活動の様子)



(教科書も参考にする)



(事典も活用)



(資料を見ながらまとめる)

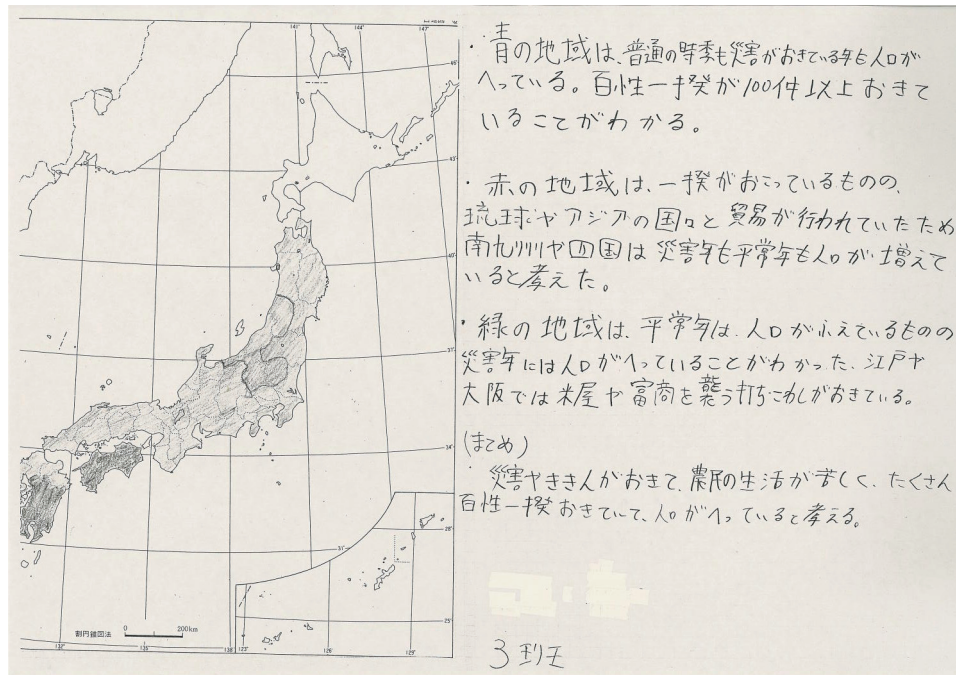


(地図を作成している班)



(発表資料の作成)

以下に、各班が作成した発表資料を紹介する。



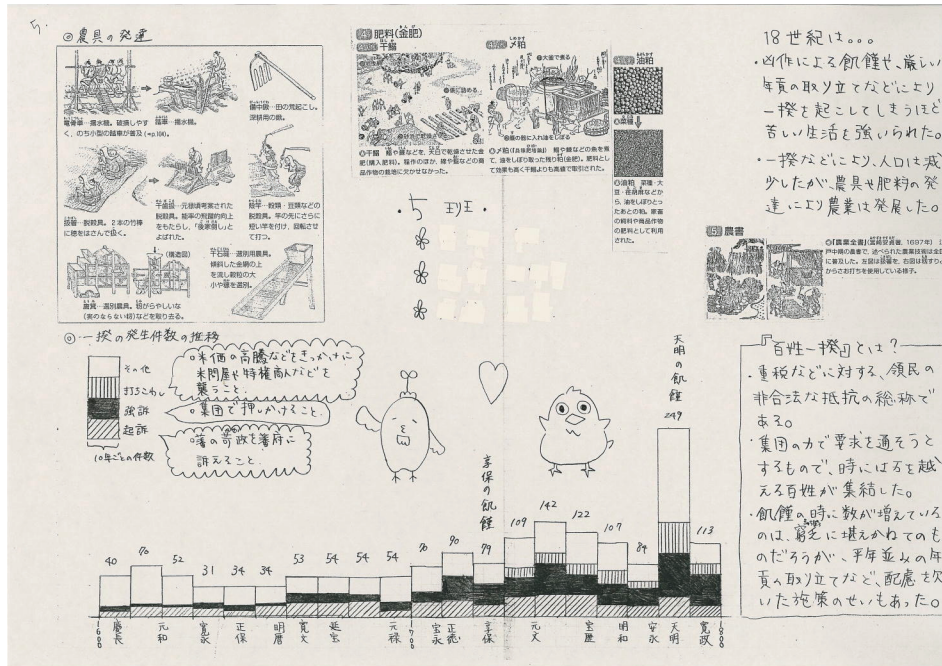
< 3班が作成した発表資料 >

この班は、**資料E**をもとに全国の人口増減の様子を地図に色分けして表現した。18世紀以降の人口停滞は全国一律に起きたものではなく、特に東日本では災害年だけではなく平常年でも人口が減少していることを視覚的にとらえられるように表現している。東日本の人々にとって18世紀は生活困難な時代であったという発表内容をわかりやすくする上で、この地図は効果的であった。



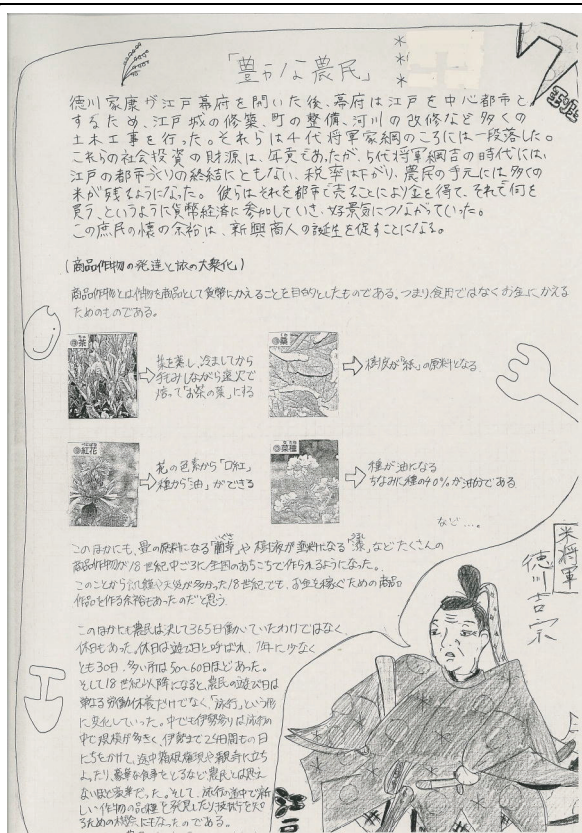
< 4班が作成した発表資料 >

この班は、**資料C**と**資料F**を選んだ。農業技術が発達したことと、天明の飢饉の発生とをどのように関連付けるか苦心していた。図書館にある日本史辞典で調べたところ、踏車や千歯扱、千石筵など多くの農具が17世紀後半から18世紀初頭に発明、普及したことに気付いた。このことから18世紀前半は農具の発達の効果による人口増加が見られたが、18世紀後半は飢饉の発生による人口減少が発生したとまとめている。



＜ 5 班が作成した発表資料＞

この班は、**資料B**をもとに事典や資料集を参考にして、百姓一揆の10年ごとの発生件数を集計し、棒グラフを作成した。18世紀半ばに一揆が増加していることと、天明の飢饉が発生した1780年代が突出して多いことが視覚的に明らかにされている。



＜ 7 班が作成した発表資料＞

この班は、**資料D**に掲載されている商品作物について、その用途を事典で調べ発表資料にまとめた。また、吉宗が改革の一環として商品作物を奨励したことを資料集で調べ、吉宗の時代の農民の生活に焦点を絞りまとめている。



<10班が作成した発表資料>

この班は、**資料F**と**資料G**を選んだ。天明の飢饉と浅間山の大噴火の資料であるが、図書室にある書籍を活用して、その関連性について熱心に調べていた。また、書籍を活用することで、農民の生活が困窮した原因を自然災害だけに求めず、政策の失敗にも求めるなど多面的・多角的な視点から発表資料をまとめている。

B4判片面1枚にまとめさせたのは、5時間目の発表の際に、全員に資料を印刷し配付するためである。模造紙にまとめさせることも検討したが、各生徒に配付した方が情報が手元に残るというメリットがあると考えた。また、発表資料の中に、18世紀の農民の暮らしについてまとめの文章を書くように指示した。文章でまとめることで、理解があいまいな点が明確になったり、調べたことを聞き手に分かりやすく伝えることができたりするのではないかと考えたためである。

以下は、各班の発表資料に書かれたまとめの文章である。

<1班>

飢饉や噴火など災害に多くみまわれた時代だったが、農民たちは田畑の面積を増加させ石高を上げるなどして、農業生産を向上させ農業が発展した。人々が力強く生きた時代だった。

<2班>

一方では、飢饉や災害で苦しんでいる農民に対し、裕福な農民は旅行するなどゆとりをもっていた。このことから、貧富の差が激しいと考えられる。

<3班>

災害や飢饉が起きて、農民の生活が苦しく、たくさん百姓一揆がおきていて、人口が減っていると考える。

<4班>

18世紀前半には、農業技術と肥料の発達により、暮らしが豊かになりすぎたのだと思われる。

後半は天明の大飢饉のような、自然災害により生活は貧しくなり、前半豊かすぎた分、後半とても苦しんだのだと思われる。

< 5 班 >

- ・凶作による飢饉や、厳しい年貢の取り立てなどにより一揆を起こしてしまうほど苦しい生活を強いられた。
- ・一揆などにより、人口は減少したが、農具や肥料の発達により農業は発展した。

< 6 班 >

18世紀は、博物趣味のブームが起こり、人々はゆとりのある生活をしていたと予想される。そんな生活の中、享保の飢饉や天明の飢饉によって百姓一揆や村方騒動、打ちこわしが各地で起こり、人々の暮らしは貧しくなっていたと思われる。

< 7 班 >

18世紀は、商品作物が全国のあちこちで作られるようになった。飢饉や天災が多かった18世紀でも、お金を稼ぐための商品作物を作る余裕もあったのだと思う。また、農民は決して365日働いていたわけではなく、休日もあった。休日は遊び日と呼ばれ、1年に少なくとも30日、多い所では50～60日ほどあった。そして18世紀以降になると、農民の遊び日は単なる労働休養だけではなく、「旅行」という形に変化していった。中でも伊勢参りは旅行の中で規模が大きく、伊勢まで24日間もの日にちをかけて、途中、箱根権現や清見寺に立ち寄ったり、豪勢な食事をとるなど、農民とは思えないほど豪華だった。そして、旅行の途中で新しい作物の品種を発見したり、技術を知るための機会にもなったのである。

このように農民の生活は思っていたよりも自由で豊かなものであったことがうかがえる。

< 8 班 >

- ・田畑の面積の増加や石高の増加によって、農業がさかんになった。
- ・都市の消費者の需要に応じるために農民たちは商品作物の栽培に励んだ。
- ・食べるものだけでなく植物を育てて衣料に使ったり、布を染めたり、ろうそくやたばこや油を作ったりして生産を発達させた。
- ・農書があったおかげで多くの人が技術を学ぶことができ、道具の進歩により効率よく仕事ができた。また、肥料の改良によって作物がよく育ったと思われる。
- ・18世紀の江戸時代の人々は自分の暮らしを支えるために自給自足の生活にも関わらず多くの困難を乗り越え、農業を発展させていった時代だった。

< 9 班 >

18世紀の人々は、飢饉によって、ほとんどの地域で人口が減少したことがわかった。また、江戸時代は博物学の流行があったことも調べてわかった。

< 10 班 >

浅間山の大噴火や天明の飢饉により日ごろから最低の生活をしていた農民は食料を保存させる余裕はなかったため18世紀の人口は著しく減った。

無理な改革や自然災害のため、18世紀は人口が減少したのだとわかった。改革をして一番被

害を受けるのは農民だからこの時代の人は本当に可哀想だと思った。

まとめの文章を見ると、選択した資料の関連付け方には五つあることがわかる。1班や7班、8班は、農業技術の発達に注目し、農民が災害や飢饉などの困難の中にもそれを乗り越え、力強く生きた時代であったとまとめている。これらの班は、選択した資料を同時代の同じ農民層に関するものにとらえ、農業技術の発達による農民の生活の向上を中心に、資料の関連付けを行っている。2班も選択した資料を同時代のものにとらえている。しかし、貧困層と富裕層とに関する資料と考え、貧富の差があったという考察を行っている。4班と6班は、選択した資料の内容を時代の前後関係で関連付けた。3班と10班は、飢饉や災害、人口減少など社会の停滞や混乱に関する資料を選択したために、関連付けは十分にできた。しかし、農民層の困難な一面しかとらえることができなかった。5班と9班は関連付けが不十分であった。

④ 5 時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3分	・ 本時の活動内容の説明を聞く。	
展開 40分	・ 各班の発表を聞き、必要な情報をメモに取る。 ・ 各班の発表について、評価をする。 ・ 一連の学習活動で得た情報をもとに、各自で18世紀の農民の生活について文章にまとめる。	・ 一班3分で発表させる。 ・ 要点をまとめて簡潔に発表するよう指示する。 ・ 発表の内容や資料のまとめ方、声の大きさなどに注目させる。 ・ 箇条書きではなく通常の文章にまとめさせる。
まとめ 2分	・ 一連の学習活動に対する教師の講評を聞く。	

5時間目の学習内容は各班の発表と、各自でのまとめである。図書館で実施し、班ごとに着席するよう指示した。発表の時間は一班3分とした。短時間での発表なので、要点をまとめた原稿を作成するなど、各班で工夫するよう3時間目の授業の際に伝えておいた。

また、各班の発表に対して「発表評価シート」（資料）により評価させた。特に、発表の良かった点とそうでなかった点については文章で書かせた。このことで、わかりやすく発表する際の留意点について、生徒自身が気付くのではないかと考えたからである。



（発表の様子）



（発表を聞きながらメモを取る）



（発表を評価する）

発表評価シート

3年 組 名前

- 1 他の班と比較して、自分の班の発表はどうでしたか。

4	とても良くできた	3	まあまあ良くできた
2	あまり良くできなかった	1	出来が悪かった

- 2 他の班の発表を評価してみましょう。

	評 価					評 価			
1 班	4	3	2	1	6 班	4	3	2	1
2 班	4	3	2	1	7 班	4	3	2	1
3 班	4	3	2	1	8 班	4	3	2	1
4 班	4	3	2	1	9 班	4	3	2	1
5 班	4	3	2	1	10 班	4	3	2	1

4	とても納得した	3	まあまあ納得した
2	あまり納得できなかった	1	納得できなかった

- 3 どの班の発表が一番良かったですか。 _____ 班

具体的にどのようなところが良かったですか。

- 4 説明が納得できない班はありましたか。 _____ 班

具体的にどのようなところが納得できなかったですか。

発表はほぼ時間通りに行うことができた。ただ、聞き手は、必要な情報をメモに取る作業と、発表評価シートに記入する作業とを同時に行うことになってしまい、集中して発表を聞くことができない状況に陥っていた。一方、発表資料をB4判にして、全生徒に配付したことにより、発表を聞きながら、疑問点などをそこに書き込んだり、興味を持った点にマーカーで印を付けたりする生徒が見られた。模造紙やスクリーンを活用しての発表よりも、今回の方法の方が利点が多いと思われた。

発表評価シートを集計した結果、最も高い評価を受けたのは7班の発表で、10名の生徒が支持した。次いで5班の6名であった。

7班を支持した生徒が書いた支持理由の中から、いくつか取り上げる。

- ・お金を稼ぐための商品作物を作る余裕があり、休日が多くあることが分かったため。
- ・説明がとてもわかりやすかった。図がはってあって見やすかったし、絵もあってよかった。
- ・うまくまとめてあって絵もあって、発表の時の声もよかった。
- ・分かりやすくまとめてあって、資料から読み取り、自分たちの考えがはっきりしていた。

5班を支持した生徒の理由は以下のとおりである。

- ・言葉の遣い方、読み方、まとめ方が上手だった。表が分かりやすかった。
- ・よくまとめられていて、自分たちが調べたことを聞き手に分かりやすいようにかみくだき上手く伝わってきたから。
- ・図やグラフがあり、簡潔にまとめられていてわかりやすかった。

7班の発表の評価が高かった理由として、選んだ資料の関連付けを上手に行うことができたことが挙げられる。つまり、この班は、商品作物の栽培が農民の生活にゆとりをもたらし、その結果、余暇の充実や旅行の大衆化が起きたという説明をしていた。この因果関係が、説明の分かりやすさとなって聞き手に受け止められ、高い評価につながったと考えられる。

5班の発表は、百姓一揆や干鰯などの語句について丁寧に調べ、その説明を踏まえて発表することができた。このことが、わかりやすさにつながったと思われる。また、他の班が、教師が用意した資料を切り貼りして発表用資料を作成したのに対し、5班は他の書籍などを参考に、資料の内容をさらにわかりやすく棒グラフ化したものを作成した。こうした工夫も高い評価につながったものと思われる。

全ての班の発表が終了したあと、一連の学習で得た情報をもとに、18世紀の農民の暮らしについてワークシートの欄に各自で文章でまとめる作業を行った。実際には10分弱程度の時間しか確保できず、多くの生徒は課題として翌日に提出した。

生徒が記入したものの中からいくつか紹介する。

18世紀の人々は、生活にゆとりがある時と、ゆとりがない時の二つを、どちらも経験していることがわかった。旅を農民がしていたり、休みの日がけっこうあったりと、楽しい生活の面もあり、飢えに苦しむ面もあり、どちらが本当というわけではなく、どちらもあった時代だということがいえます。

この生徒は、7班に所属して活動を行ってきた。7班は商品作物の栽培と旅行の大衆化、農民の休日についてまとめ、生徒から高い評価を得た。しかし、他の班の発表を通して、飢えに苦し

む面があったことにも気付き、それを踏まえて最後のまとめの文章を書いている。「どちらが本当というわけではなく、どちらもあった時代」というのは、この生徒が18世紀の農民の暮らしについて多面的・多角的な視点を得たことを示していると言える。

18世紀の人々の暮らしは、飢饉や噴火などの災害が多くおこり、農民の不満もあり、百姓一揆などの一揆がたくさんおこった時代であったが、農民は田畑の面積を増加させたり石高を上げるなどして、農業生産を向上させ農業を発展させた。このことから人々が力強く生きた時代といえる。

この生徒は、3班に所属して活動を行ってきた。3班は飢饉や噴火などの災害で人々が苦しい生活を強いられたことをまとめ、発表を行った。また、1時間目の授業で記入した18世紀の人々の暮らしに関する文章でも、「享保の飢饉がおこり、米価が上がり各地で打ちこわしが起こった。」と書かれていた。しかし、最後の文章を見ると、農業の発展の事実を踏まえ、「人々が力強く生きた時代」という表現でまとめている。

飢饉や一揆などで貧しい暮らしをしいられていたかと思ったら、休暇には旅行に行くなど豪華な生活を送っている時もあり、18世紀には貧富の差が激しいと思った。一概に貧しかったとは言えないと思った。

この生徒は、10班に所属して活動を行ってきた。10班は飢饉や噴火、失政などの影響で農民が苦しい生活を強いられたことを調べ、「この時代の人には本当に可哀想だと思った」というまとめをしていた。しかし、上の文章を読むと、7班の発表の内容を踏まえて「一概に貧しかったとは言えない」というまとめをしている。

以上、3名の生徒の例を紹介したが、このように、多くの生徒が18世紀の農民の暮らしについて多面的・多角的な視点で考えることができた。

(4) 生徒による授業評価

ワークシートの最後に、一連の学習を終えて感じたことを自由に書く欄を設けた。回収して書かれた内容をみると、全ての生徒が今回の学習活動について肯定的な感想を書いていた。

書かれた感想を以下に紹介する。

- ・まとめるにあたって調べたりして新たな発見をすることができた。今までより深く知ることができたと思う。何が本当かは分からないけど調べるほどいろいろなことがでてくるなと思った。
- ・資料を見て調べながらまとめることは難しかったけど、江戸時代の人々の暮らしについて詳しく知ることができてよかった。
- ・江戸時代の人々の暮らしというのは、一揆がおこったり、災害や飢饉が起こってとても貧しい暮らしだと思っていたのに、よく調べてみたら、農業が発達したり、旅行をする農民も出てきたりしてゆとりがある生活もしていたんだなあと考えた。もっと他の歴史のことも調べてみたいと思った。
- ・この授業を通して、歴史とはただ教科書を読んだり聞いたりするだけでなく、自分で調べ、まとめることによって、よりいっそう理解を深めるものだった。
- ・資料を使って考え、まとめていく授業は久しぶりだった。まとめ方や資料ののせ方、見やすくする工夫ができた。普通の授業も好きだけど、たまにこういう授業もやりたいなと思った。

みんなと協力して頑張れたことも良かった。

- ・一番難しい資料を選んでしまった時は、うまくまとめられるかとても心配でしたが、最終的に班の人たちと協力してうまくまとめる事ができました。また、この授業を通して、18世紀の人々について詳しく知ることができました。このような、班に分かれて、調べものをして、発表をするということが久しぶりだったので新鮮でした。今回のような授業ができて良かったです。

感想を見ると、調べる活動を通して新たな発見をしたり、歴史に対する興味が高まったりしたことがわかる。また、自分で調べることで理解が深まることに、このような学習活動の意義を見出している生徒や、友人と協力することで目標を達成したことに意義を見出している生徒がいることもわかる。

3 まとめ

(1) 成果

本事例では、複数の資料を活用し、資料の読み取りや因果関係の考察、資料にもとづく解釈といった言語活動の充実を図るとともに、事象に対する興味・関心を高めたり、事象に対する多面的・多角的な見方を育成することを目指した。

生徒の感想に見られるように、自ら調べることで興味・関心が高まったり、理解が深まったりするなど、一定の成果が上がった。また、友人との協力で課題を解決することに意義を見出す生徒が出たことも、言語活動を充実させる上で重要な成果と言える。

また、5時間目に発表会を実施したことで、他の班の情報も踏まえて多面的・多角的な見方で18世紀の農民の生活について文章で表現できるようになっている。このことから、言語活動を取り入れた授業においては、単に調べてまとめるという段階にとどまらず、調べたことを発表する場を設けることが重要であることが改めて確認できた。具体例として一人の生徒の変容を紹介する。この生徒が、1時間目に18世紀の人々の暮らしについてまとめた文章は次のようなものであった。

< 1時間目 >

たびたび飢饉にみまわれた人々のくらしは苦しいものだったと思う。

この生徒は、1班として調べ学習を行った。1班は、飢饉や噴火に苦しんだ時代だったが、農業生産力の向上が見られることを踏まえて、「人々が力強く生きた時代だった。」とまとめていた。

5時間目の最後に書いた文章は次のようなものであった。

< 5時間目 >

18世紀という時代は、飢饉や災害が数多く起こり人々は苦労が絶えなかったと思う。しかし、その反面、田畑面積が増加したり、石高も増加したりして農業生産が向上していった。また、人々の間でいろいろな趣味がブームとなって、くらしを楽しんでいたということで、災難に見舞われた時代と同時に人々のくらしはある意味で充実、豊かだったのかもしれないと思う。

いろいろな趣味がブームになったのは苦しい時代に、生活を豊かにするためのものだったのかもしれないと感じました。

文章を読むと、自分たちで調べた内容に加え、他の班の発表から得られた情報も含まれていることがわかる。

さらに、最後の感想では次のように書いている。

<感想>

教科書をただ読み覚えるよりも、自分たちで調べていくことでより自分の頭で考えてから覚えることで頭の中に残り、理解度が全く違うと思いました。一枚の紙にまとめるという作業は、自分の考えを表現して整理することで理解が深まりました。

また、授業に対する生徒の感想が全て肯定的なものであったことに表れているように、生徒は一連の活動に意欲的に取り組んでいた。特に、3時間目と4時間目に図書室で行った活動の際には、各班で活発な話し合いが行われたり、資料の内容に関する疑問や、書籍の紹介などに関する質問が、机間指導をしている教師に多く寄せられ、教師と生徒との会話が増えたりするなど、生徒同士及び生徒と教師とのコミュニケーションの機会が増えるという効果も確認された。

以上のように、言語活動を取り入れることによって、生徒の歴史に対する興味・関心が高まったり、事象に対する多面的・多角的な見方ができるようになったり、あるいはコミュニケーションの機会が増えたりするという成果を得た。今後とも、通史的な学習内容との関連を重視しつつ、計画的に言語活動を取り入れていきたい。

(2) 課題

今回の事例では、複数の資料を選択し、関連付けることが目標の一つであった。しかし、実際に行うと、選択する段階で多くの時間を費やした。また、資料を選択したものの、その関連付けに悩んでいる班も多かった。

円滑な活動を行うには、既習事項との関連が深い資料を用意するか、事前に資料について教師から十分な説明をするかのいずれかが必要であることを再認識した。しかし、こうした配慮をしすぎると、生徒の追究しようとする意欲を高めることができなくなるとも考えられる。今回、資料の関連付けに悩み、うまくまとめられなかったいくつかの班の、3時間目と4時間目の活動の様子を見ると、かえって活発な話し合いを行っていたり、書籍を利用して調べたりしていた。言語活動を取り入れた学習においては、発表やまとめの文章といった、学習の成果だけではなく、そこに至る活動の過程も重要である。従って、円滑な活動を促すことと、追究しようとする意欲を高めることとのバランスを意識して資料を用意しなければならないと感じた。